幼児教育の質向上につなげる

実効性のある学校評価の実施に向けて

- 現場からの疑問に応える
- 教師のやる気を引き出す
- 園の運営に生かす

公益社団法人
全国幼児教育研究協会

学校評価の流れ

～学校評価は、保育を含む園運営の改善・家庭や地域と連携した学校づくり～

自己評価

学校関係者評価

学校評価には、自己評価と学校関係者評価があります。

重点目標の設定

↓

評価項目・
評価指標の設定

↓

実践（園での取組）

↓

年度末の自己評価

→ 情報提供や
保育参観等を通して
園の活動を理解

↓

保護者や地域住民等の
学校関係者が
自己評価の結果を評価

↓

改善の検討

これを毎年繰り返すことで、園の取組が充実します！

学校評価実施の感想

まずはやってみることが大切です。

1年目

重点目標を踏まえて、「幼児がこんな育ちを見せたら嬉しいね」というような成長モデルを『成果指標』として示したら、教職員から、「分からない」と言われました。

3年目

「評価指標として設定した取組を意識しながら保育に取り組むのが、当たり前になった」と教職員から言われます。

3年間を振り返った園長の感想

園長のリーダーシップの下に、全教職員で試行錯誤しながら進めていくうちに、気がつけば、自己評価が保育の質を保証するための仕組みとして機能していました。

次ページからは、自己評価についてみてみましょう！

自己評価の実施の流れ

～学校評価の基本は「自己評価」～

重点目標の設定

・本年度、特に重点を置いて目指したいこと

・保育や必要な取組のイメージができる目標

評価項目・評価指標の設定

・重点目標の達成に向けた取組（評価項目）の設定

・取組や達成の状況を把握する視点（評価指標）

実　践

年度末の自己評価

保護者アンケートの結果の活用（※）

・全教職員での振り返り

・取組状況や成果を確かめて、「重点目標」の達成状況を把握

改善の検討

・全教職員での振り返り

・短期的、長期的な視点から、課題解決を検討し、来年度以降の取組を改善

学校関係者評価も実施しましょう。

※　保護者は、幼児が園に通う姿を毎日見ています。年度終わりや保育参観終了後に実施する、園での活動等に関する保護者アンケートの結果も参考にして、1年間の園での活動を振り返りましょう。

自己評価の実施例

～「実践の具体的なイメージ」～

重点目標

○自然と関わる遊びを豊かにする保育の展開 他

・教育目標「考えて行動する子ども」の達成に向け、不思議さに夢中になれる保育を展開したい。

・自然と関わると「不思議！」を考えることも多い。

・園の自然環境を十分に活用できていない。

評価項目

○振り返りの充実による指導計画の改善 他

・自然と関わる遊びを指導計画に位置付け

評価指標

どのようなことに、どの程度取り組むか。

（取組指標）

④振り返りの記録を定期的にまとめて指導計画を改善する
③振り返りの記録から、自らの指導と幼児の学びとの関わりを捉える
②幼児が自然と触れ合っている姿を記録し幼児の興味・関心を捉える
①自然と関わる遊び等を保育に取り入れる

幼児や教師がどのように変化したか。

（成果指標）

④幼児が自然の変化に興味を示したり、自分たちの遊びを取り入れるようになった
③幼児が、調べたり集めたり試行錯誤したりしながら、自然環境に関わるようになった
②幼児が、自然の事象や変化に気付き、表現したり伝えたりするようになった
①幼児が、自然の事象や自然の様子を見るようになった

実　践

総括表等の活用

年度末の自己評価

改善の検討

○来年度の教育課程の編成

○教育活動＆園運営への反映

各園での課題発見・解決の道筋の中で、教師の力量を伸ばすきっかけがつかめるでしょう。これこそが、学校評価の意義の一つです。

自己評価の総括表の例（イメージ）

～成果と課題を俯瞰する手立て～

本年度の評価項目を全て並べることで、園が教育水準を高めるためにどのような努力をどの程度行っているかが分かります。

重点目標	評価項目	基準	取組指標	取組結果	基準	成 果 指 標	成果	総括評価	コメント
① 自然と関わる遊びを豊かにする保育の展開	【教育課程・指導】 振り返りの充実による指導計画の改善	4	振り返りの記録を定期的にまとめて指導計画を改善する	2.6	4	幼児が自然の変化に興味を示したり、自分たちの遊びを取り入れるようになった	2.6	B (2.6)	
		3	振り返りの記録から、自らの指導と幼児の学びとの関わりを捉える		3	幼児が、調べたり集めたり試行錯誤したりしながら、自然環境に関わるようになった			
		2	幼児が自然と触れ合っている姿を記録し幼児の興味・関心を捉える		2	幼児が、自然の事象や変化に気付き、表現したり伝えたりするようになった			
		1	自然と関わる遊び等を保育に取り入れる		1	幼児が、自然の事象や自然の様子を見るようになった			
	【研修：資質向上の取組】 自然に関わる遊びや活動に関する園内研修の実施	4	幼児が自然に関わって面白がったり試行錯誤したりしながら遊ぶ姿について園内研修を 月に1回以上 行う	3.5	4	教師はもっと面白い遊びや素材等を見つけて保育に活用しようとするようになった	3.3	A (3.4)	
		3	同上 月に1回程度 行う		3	研修で提案された遊びや素材を実際に保育に活用し、試してみる教師が出てきた			
		2	同上 2か月に1回程度 行う		2	新しい遊びや素材等を探す教師の姿が見られるようになった			
		1	同上 学期に1回程度 行う		1	教師が保育の中で提示しているのは、自分の扱い慣れている遊びや素材だけである			
②（略）	（略）								

教師がどのような保育や取組をしたか、力量を高める努力をしたかを取組指標の【１】～【4】の基準に照らして振り返ります。取組の結果、基準【２】程度の取組だったという評価であれば、幼稚園の取組としては、普通程度だったことになります。【3.5】は、とても努力したという結果と言えます。

その取組の結果、幼児や教師がどのように変容したかを成果指標に照らして評価します。結果が、指標の基準【３】程度であれば、幼児が育って（或いは、教師の力量が上がって）目標に近づいてきた、【4】であれば、「幼児（教師）は、十分成長した！」「取組がよかった。この取組は有効・大切」ということが分かります。

※ この例では、数値化して評価を実施しています。大切なのは数値化することではなく、評価の客観性や妥当性を確保し、保育や園の改善に向けた協議を行うことです。

Q 重点目標と教育目標は、違うの？

A 違います。重点目標は、本年度、園において、特に重点を置いて目指したい成果や取り組むべき課題を、目標として設定します。

Q 評価指標（取組/成果）は難しそうだけれど、どうやって設定するの？

A P7の取組指標を見てください。きっと、取組指標は、教師が行う取組の頻度や質的レベルを段階的に示していることに気付くと思います。このように評価指標を作ることで、保育の可視化につながります。

Q 学期末の保育の振り返りは、学校評価と関係するの？

A 関係します。各学期末に、全教職員は、教育活動を振り返りながら幼児の学びや育ちなどについて考えます。その際に、重点目標に照らして評価項目・指標を加えると、学校評価の中間評価になり、年度末の学校評価につながります。

Q 学校関係者評価は、なぜするの？

A 幼稚園内部で行う自己評価だけでは「自己満足じゃない？」と信頼されにくいのです。自己評価の妥当性について、学校関係者評価委員会の評価を受けることで学校評価の信頼性を高めます。

学校評価による

PDCAサイクルを通じて

幼児のよりよい園生活を

つくり出す

実効性のある学校評価の実施に向けて
－幼児教育の質向上につなげる学校評価
　ガイドブック－

幼稚園における学校評価ガイドライン
〔平成２３年改訂版〕

本リーフレットは、令和２年度文部科学省委託事業の成果に基づき作成したものであり、著作権は文部科学省に帰属します。非営利目的に限り複製は自由です。広くお配りください。